

情報収集とアセスメント能力を高める トレーニング

「北里方式グループスーパービジョン」を体験しよう

第1回 北見在宅圏域多職種連携・ケアネットワーク研修会



開催趣旨

介護支援専門員、ソーシャルワーカーや訪問看護師をはじめ、多くの対人援助職は事例(症例)検討を行います。事例提出は準備が大変、まな板に乗せられる気分。まるで「さらし者」です。しかし実践能力は多くの事例に接して磨かれます。そこで多くの対人援助職が苦手、自信がないというアセスメント能力を高める「北里方式グループスーパービジョン」の方法を学びます。この方法は事例提出者がほぼ準備が不要です。また参加者は事例の問題を予測しながら順番に質問します。これは情報収集してアセスメントするという実際の援助過程と同じ感覚でトレーニングができます。つまりアセスメントは一回きりではなく、質問と情報収集をループのように繰り返しておこなうのです。今回はソーシャルワーカーに限らず、多くの対人援助職が同時に他の参加者と、予想する問題・アセスメント・プランについて比較することが可能となります。

講師



松山 真

立教大学 コミュニティ福祉学部 福祉学科

特別専任教授 陸前高田サテライト長

参加すると向上できる能力

1. 人や状況の見方について多面的にみる事が出来るようになる
2. 発想力を高める・広げる
3. 少ない情報から問題を予測できる能力が養われる（アセスメント能力）
4. 援助に必要な情報を特定することができる（アセスメントと密接に関係）
5. 問題を予測する力の精度を上げることができる。

Maybe → perhaps → likely → Probably（多分・おそらくの精度）

申し込み

インターネットにて申し込み（Googleフォームが開きます）

<https://forms.gle/RYmTmK19d5w7o17D8>

締め切り：令和7年12月5日(金) 先着順で締め切ります



日程

日時：令和7年12月20日(土)

13:30～16:30（180分）

場所：[オホーツクJAビル](#)1階 A会議室（北見市とん田東町617番地）

対象：介護支援専門員、ソーシャルワーカー、薬剤師、看護師、リハビリ職や管理栄養士など対人援助職

方法：対面のみ（オンラインなし）

定員：50名(先着順で締め切ります)

費用：無料

実施団体

主催：北見在宅医療圏連携拠点センター
北見地域介護支援専門員連絡協議会

協力：北見在宅圏域多職種連携・ケアネットワーク

問い合わせ先

北見在宅医療圏連携拠点センター 関

北見市中央三輪2丁目302-1

医療法人社団高翔会 北星記念病院内

電話 0157-51-1244

メール kitami.medicare@nouge.gr.jp

北見在宅医療圏連携拠点センターは、在宅医療における必要な医療機能の確保・強化に向け、市町村が実施する在宅医療・介護連携推進事業の取組と連携しながら包括的かつ継続的な在宅医療の提供体制を構築するための連携調整を担い、北海道医療計画において「在宅医療に必要な連携を担う拠点」として北海道の指定を受け、活動しています。